

会員の皆さんへのお礼とお願い

会長 村上 治

少し遅くなりましたが、新年明けましておめでとうございます。

会員の皆さんにおかれましては新しい年を迎え、夫々抱負も新たに、そろそろエンジン全開の事とお慶び申し上げます。

昨年の巻頭言において申し上げましたが、3年前は国内外の大地震で天災の年。一昨年はJR福知山線の脱線事故、海外でのテロ続発等で人災の年でありました。昨年もやや異常気象的な事はありましたが、さほどの事は無く、何と言っても政治、外交の年でありました。五年有半に亘った小泉政権から、安倍新総理に替わり、早速こじれていた中国・韓国との首脳会談が再開され新しい北東アジア新時代が開けるかと思っていた所に、ねらい定めたという事でもないのでしょうか北朝鮮が核実験を行ったという発表で、国連を中心に大騒ぎでありました。ロシア、中国に加えて北朝鮮まで核保有ともなると、日本の安全保障問題も改めて問い直さなければならないという事態に立ち至って来たように思われます。しかし安倍新政権にとっては、国内的にも財政再建問題をはじめ、少子高齢化問題、社会保障問題、教育問題、憲法改正問題等々、課題は山積しております。しっかり舵取りをお願いしたいとの思い切なるものがあります。

所で、私が会長を拝命して以来申し上げていたように、当同窓会も財政問題を抱えておりました。約一万人近い同窓生がいるにも拘らず、会費を納入していただける方は800人足らずで、会報の発行、総会開催等必要最小限の活動を行う支出を賄えず、不足分は過去の蓄積を喰いつぶすという状態でありました。平成16年度の総会でご指摘もあり、同窓会役員一丸となって改善に取り組む事と致しました。

改善策の主な点は、

- ①会費納入依頼書を工夫して過去の納入現況状況を把握出来るようにすると共に住所・氏名を記入しておく。更に振込み機関も拡大する。
- ②会員有志の方々にご寄付をお願いする。
- ③インターネット時代に相応しい会員との連絡手段を確立すべくメールアドレスを登録して頂く。
- ④合理的な経費削減努力をする。
- ⑤大部分の会員と同窓会をつなぐ同窓会報をより充実したものとする。

等であります。勿論すべてが実現しているわけではありませんが、会員の皆さんの絶大なご協力によって、かなり明るい見通しが開けて参りました。

先づ平成17年度の会員納入者が倍増し、会費納入が約600万円となりました。またお願いしたご寄付

も100万円の予定に対して、140万円弱と期待を大きく上廻ることになりました。

会員の皆様のご協力、ご芳志心から厚く感謝申し上げます。本当に有難うございました。

この結果をうけまして、平成19年度より、かねて申し上げておりましたように会費を2000

円に値下げする事と、80歳以上のシニア会員の会費免除を昨秋の総会でお決め頂きました。今後更に会費納入率の向上と効率的な支出削減の策定状況によって、更なる会費値下げ、あるいはシニア会員の年齢引き下げについて検討して参りたいと思っております。

このような事を申し上げる事が出来るようになりましたのも、会員の皆様のご協力の賜物であり、重ねてお礼申し上げます。

会報は全会員を結ぶ大きな絆であり、よりよい会報を目指しております。昨年お届けしたA4版横書化、表紙のカラー化、印字の拡大、内容刷新の会報に引き続き、更に会誌編集担当の取り組みについて触れさせて頂きます。一番大きな変化はフルカラー化であります。白黒テレビとカラーテレビを持ち出すまでもなく、表現力、情報量、等の面で格段の読みやすさが実現出来ると思えます。また、記事の内容としては、大学のトピックス或いは近況についても一層充実して参りますが、従来以上に同窓会員からの発信に重心を移すこととしています。同窓生の活躍、近況報告の拡充であります。同窓生が各界、各企業で大いに活躍され、誇り得る成果を自薦他薦を問わず、ページ数が足りないという状況になることを願っております。是非これ等の欄への投稿をお待ちしております。同窓会報を一層充実したものとするために会員の皆様のご協力を切にお願いするものであります。

最後に再び東北大学百周年記念事業への寄付についてのお願いであります。いよいよ百周年の年を迎えました。全体では募金目標50億円に対して約60%の進捗であります。同窓生の部は15億円の目標に対して約一万人強の方から約7億円の寄付が寄せられており、47%の進捗という所です。未だご応募頂いてない方から一万円のご協力があれば目標に届く事になります。百年に一度の慶事には是非全員で参加をしたいもので、重ね重ねのお願いで恐縮ですが、よろしくお願ひ申し上げます。

